



関連会社の新労組JS労と共に JR東海労連の結成を確認！

第40回JR東海労臨時大会

2月14日名古屋でJR東海労臨時大会が開催され、関連会社で結成された新労組・JRサービック労組（JS労）と連帯し東海労連を早急に結成することが確認されました。新幹線地本からは土川代議員と綿貫代議員（欠席した斉藤代議員の発言代読）が発言しました。

■土川代議員発言要旨 JS労の結成は、プロパー社員への働きかけという大



変な闘いの結果、JR東海労をJR東海労として残し、未来を切り拓く闘いであり、いかなる非難も否定もされるものではない。

新幹線地本も関連会社や警備会社との団交をつくりだし、ビラや交流を通じて共感を得てきた。そして関西で組織拡大が実現した感慨もひとしおだ。一刻も早く東海労連を結成すべき。各地方で第二、第三のJS労の結成のための闘いに邁進することだ。

2025年度で先頭で闘っている役員はすべて退職をしていく。継続組合員が執行委員として奮闘してもらわなければならない。執行権についても議論が必要だ。

●JS労西副委員長の感想

土川代議員の発言に感動しました。自分たちの闘いが認められた。討論の間、涙が止まりませんでした。

■綿貫代議員発言要旨



①分会執行委員会で、JR総連見解、JR東海労定期大会委員長あいさつと方針、JR総連大会の組織方針を読み合わせ、JS労結成はJR総連・JR東海労の方針に則った闘いであることを確認。②本部主催の全地本代表者会議の議論・JS労と連携していくことを分会主催の出向者交流会で報告した。③近畿地協定期委員会での渡辺幹夫委員の発言原稿を読み合わせ、我々は結成以降、組織破壊攻撃に抗し組織拡大しようがんばってきたことをJR総連の仲間に分かってもらう議論が必要だと確認した。結成のやり方に疑問があったかもしれないが、形式通りにはできない事情もある。隣で働く労働者が劣悪な労働条件で、苦しい思いをしているときに、東海労の組合員は知らん顔を出来るわけがない。

●斉藤副委員長閉会挨拶 参加した仲間全員がJS労と共に闘うことを決意した。新たなステージに立った。3M1Tに新たなアルファベットを加えJR東海労の組織展望を切り開こう。